

パーソナルステイトメント

佐藤 菜都季

1 法曹を志した動機

私が法曹を志したのは、母の影響と、早稲田大学での海外ボランティアサークルでの活動が大きな要因です。私の母は看護師で、現在は地元秋田の総合病院で師長をしております。そして私は三姉妹ですが、母は私達が小さい時から、子育てのかたわら日勤と夜勤をフルタイムでこなし、私達子供は自分たちで家事を分担したり、病院のナースステーションの端で母の仕事の様子を眺めながら仕事が終わるのを待っていたりするという事が多々ありました。私はそんな母を誇りに思っており、母がいつも仕事や患者さんの話を聞かせてくれていて、私も人を助ける仕事がしたいという意識を持っていました。そして私は人の話を聞くことと、本を読むこと、文章を書くことが大好きでしたので、それを生かして人助けができるのは弁護士であると思い、高校生の中から弁護士を志望しておりました。

そして、大学に入り、私は千畝ブリッジングプロジェクトという早稲田大学の公認ボランティアサークルに所属し、第二次世界大戦の際に在リトアニア日本領事としてユダヤ人に命のビザを発行し、その命を救った事で有名な杉原千畝さんの啓蒙活動をいたしました。具体的には、毎年リトアニアへ渡航し、現地の小学生にその活動を伝えたり、ポーランドのアウシュヴィッツ収容所で日本語ガイドをしたり、日本においては高校へ出張授業をしたりといった活動です。その活動を通して、法律が人の命を奪うことの恐ろしさや、移民問題及び難民問題への関心がとても強くなり、そのような社会的に弱い立場にある人たちの力になれる仕事は弁護士だと考え、強く志望するに至りました。

2 どのような法曹になりたいのか

上述のような経験から、私は、社会的に弱い立場にある人たち、つまり自分の声を相手に届ける事が出来ない人たちの力になる事ができる弁護士になりたいと考えています。障害を持った方や子ども、女性、労働者、そして特に日本に居住する外国人の方たちの力になれる仕事がしたいと考えております。つまり、今後はさらにグローバル化が進み、日本在住の外国人がどんどん増えていくと考えられます。そのような人たちが、日本社会においてトラブルに巻き込まれた際に、言葉の壁のせいで適切な対処を受けられないといった事がないように、安心して日本で生活ができるようにサポートしていく事ができる弁護士になりたいと考えております。

以上